

第5学年 外国語科学習指導案

大阪市立清水小学校
指導者 谷口 萌

1. 日 時 令和7（2025）年7月3日（木）第3校時（10：40～11：25）
2. 学年・組 5年2組 計38名
3. 場 所 5年2組教室
4. 単 元 名 「What subject do you like?」
5. 目 標
 - 自分の興味・関心を伝えるために、「オリジナル時間割」を発表することができる。
 - 好きな教科についてたずねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、自分や友だちのことを伝えることができる。
 - デジタル教科書の音声機能を使って、個に応じた速さで英語の発音の練習したり英語を聞いたりできる。

6. 指導にあたって

（1）児童観

本学級の児童は、外国語科や週2回の英語短時間学習で、英語に慣れ親しんでいる。C-NET とも積極的に関わり、廊下で会えば自然と英語で挨拶を交わす児童が多い。

外国語科の学習では、毎時間学習の流れを Today's goal、Greeting、Let's sing!、Small Talk、Let's chants、Practice Time、Game Time、Activity、Reflection のように統一しており、児童が見通しをもって学習できている。また、C-NET との Small Talk を多く取り入れていることで、既習の英会話フレーズを使って会話を楽しむ児童が多く見られる。

ICT の活用に関しては、毎時間学習者用端末を使用している。例えば、デジタル教科書の音声機能で、チャンツを自分に合うスピードで再生しながら、手本に各自で練習したり、自分の声を録音再生して聞いたりしている。イヤホンを使って聞く児童もいるので、周りの声や音を気にせず、自分のペースで活動できる。また、デジタル教科書の録音機能を使って自分の声を録音し、発音を確認する活動では、何度も聞きなおして言い直している児童の姿が多く見られた。他にも、SKY MENU Cloud の発表ノートを使って、Birthday Card を作ったり、自己紹介カードを作ったりして、4月当初からICTを活用して学習を続けてきた。Unit ごとの復習も navima で行うなど、毎回の外国語学習で必ず学習者用端末を活用することで、ICT 活用に関するアンケート(資料②)「パソコンを使った授業は好きだ」の項目で、肯定的に回答する児童が、90% 近くにも及んでいる。

このような活動を重ねた結果、「外国語の学習は好きだ」の項目で92%の児童が肯定的にとらえており、外国語の学習に対して意欲が高い児童が多いことがわかる。また、大きな声で自信をもって英語で表現することができる児童も多い。さらに、リスニングも得意で、英語を聞き取って要旨をとらえたり、質問に答えたり、正しい答えを選択したりすることもできる。一方、外国語に関するアンケート(資料①)では、「ストーリーを聞くのが好きだ。」の項目で27%の児童が否定的に捉えており、長文を英語で聞くことに対して苦手意識を持つ児童が多いことがわかる。周囲の様子を伺いながら、ペアやグループでの会話のやり取りは楽しく活動はできるが、自主的な発表の場になると、自信をなくし消極的になる児童もいる。そんな児童も、アンケートでは、「英語を話せるようになりたい」「英語を聞き取れるようになりたい」「英語で考えや思いを書けるようになりたい」の項目で、肯定的な回答がいずれも97%と、英語の上達を願っていることがわかる。

（2）教材観

本教材では、「What subject do you like?」や「What do you have on Monday?」といった表現を扱う。曜日や教科という身近な言い方を題材とし、児童に身近な表現が多く扱われている。単元の目標である「自分の興味・関心を伝えるために『オリジナル時間割』を作成し発表する」ことは、単に教科名を暗記したり並べて時間割を作成したりする活動だけではなく、ペアやグループの友達が互いの好きなことや得意なことについて、聞き合い伝え合う必要性を意識することで、積極的に英語で質問したり説明したりできる単元である。さらに、既存の教科に加えて「オリジナル教科」を考え、自分の興味・関心について伝えることで、英語で話す

ことが苦手な児童も、話したいと思える、自主性や積極性を期待できる。ただ英語を口に出すだけでなく、常に相手の反応を意識させることで、生きた会話を成り立たせることができる教材である。

(3) 指導観

本単元は、学習者用端末を使って「オリジナル時間割」を作成し、発表するという学習である。国によって、学習している教科や内容が異なることを知り、自分の興味や地域性に関連した「オリジナル教科」について考える。これまでは、紙ベースでの活動が多く、教科書やノートに張り付けたカードが外れたり、失くなったりすることが多かった。そこで、SKY MENU Cloud の発表ノートを使ってカードを操作することで、それらが改善され、スムーズに時間割を作成することができると考える。また、チャンツの練習では、デジタル教科書の音声機能を使うことにより、自分のペースで何度も聞きなおしたり、速さを調節したりすることができる。それを繰り返すことで、苦手な児童もリスニング、スピーキング共に上達すると考える。清水小学校の C-NET に「オリジナル時間割」を伝えるという最終目標を設定することで、相手意識をもち、より分かりやすく伝えるためにはどうすればよいかを考え、相手を意識し、英語を使って伝え合う楽しさを味わうことができるようにしたい。4月から提示している Big voice、Smile、Eye contact、Gesture、Reaction というコミュニケーションの5つのポイントを示し、話す側も聞く側もポイントを意識しながら活動できるように声かけをしていく。

第1時の Story では、「世界の小学生とオンラインで話す」場面を見て、日本や世界の子どもたちの好きな教科についてのやりとりのおおよその内容をとらえるようにする。教科の英語表現の導入として、デジタル教科書の音声機能を使い、発音が分からなくなったら、いつでも聞き直しができることを伝えておく。子どもたちは、イヤホンを使って聞くかスピーカーで聞くかを選びながら自分のペースで単語を習得していく。チャンツの練習も同じ方法で行うようにする。

第2時の Let's try. では、「What subjects do you like?」のフレーズを練習するため、発表ノートを使ってペアワークを行う。ペアの好きな教科をたずね、発表ノートの画面上で教科カードを動かして枠にはめることで、しっかりと相手の英語が聞き取れているかを確かめるようにする。

第3時の Let's watch. と Let's listen. では、「各曜日の時間割をたずねる」場面を視聴して、そのたずね方と答え方をおおよそ理解できるようにする。

第4時の Let's try. では、世界の小学生になりきって、曜日ごとに時間割をう活動を行う。ペアでイギリス担当とフランス担当に分かれ、イギリス担当の児童は、イギリス人になりきってイギリスの紹介をし、フランス担当の児童はそれを聞いて穴あきの時間割に教科を埋めていく。その後交代で同じようにフランス担当の児童も行う。パズル感覚で教科カードを動かし楽しく行いながら、しっかりと聞き取る力をここでつけさせたい。

第5時では、C-NET に発表するために一人一台端末を使って「オリジナル時間割」を作る。好きな曜日の時間割を選び、普段から学習している教科に、一人2つオリジナル教科に変える。オリジナル教科は、第1時で学習した外国の教科、将来の夢に関する教科、習い事や趣味に関する教科、自分の地域に関する教科等から考えるようにして、「自分の好きなこと」に関連させるようにする。そうすることによって、発表の際に「Do you like ~?」の質問に対して「Yes, I like ~.」と答えることができると考える。また「What do you have on ~day?」「I have ~.」「Do you like ~?」「Yes, I like ~.」等のフレーズを練習する際に、相手(C-NET)を意識してジェスチャーや表情を作るように声をかけて、目的をはっきりとさせる。

第6時(本時)では、前時で作った「オリジナル時間割」をもとに発表する。指導者がデモンストレーションを行い、発表のイメージをもたせる。発表で使う単語やフレーズを個人のペースでしっかりと練習した後に全体で確認することで、自信をもってしっかりと発音できると考える。発表の練習は班で行い、Big voice、Smile、Eye contact、Gesture、Reaction ができているかを、評価し合い、タブレットの評価に印をつけることで、目標を持って練習するようにする。より C-NET に分かりやすく伝わるように改善と練習を続ける。ふりかえりの際に、評価が改善に役立ったことに気づかせたい。

第7時では、グループごとにオリジナル時間割を発表する。初めに C-NET と指導者でデモンストレーションを行い、児童にイメージをもたせる。発表の評価規準についてもふりかえり、目的を明確にする。前に出て英語を発表することに慣れ、自信をつけるようにする。C-NET に向かって、これまでの成果を生かすようにする。

(4) ICT の活用について

授業の場所	<input checked="" type="checkbox"/> 普通教室 <input type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> グループ学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習
ICT 活用の場面	<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input checked="" type="checkbox"/> まとめ
I C T 活 用 者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他 ()
ICT 活 用 の 目 的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input checked="" type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> グループの考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> 他者との考えの比較・交流 <input checked="" type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input checked="" type="checkbox"/> 自分の考えを表現する <input checked="" type="checkbox"/> 学習の振り返り <input type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成 <input type="checkbox"/> 持ち帰り <input type="checkbox"/> オンライン接続
活 用 機 器	<input type="checkbox"/> 電子黒板 <input checked="" type="checkbox"/> 指導者用端末 <input checked="" type="checkbox"/> 学習者用端末 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (大型テレビ)
活用コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・ SKYMENU Cloud 発表ノート ・ デジタル教科書 音声機能
ICT 活用のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表ノートのグループ機能を使って、資料をつくることができる。 ・ デジタル教科書の音声機能を使って英語の発音を聞いて練習することができる。

7. 指導計画(全7時間)

時	主な学習活動	個別最適な学び 協働的な学び
1	好きな曜日や教科をたずねる言い方を知る。 「What day/subject do you like?」や「I like ○○.」 ・ デジタル教科書で単語やチャンツの練習 ・ Story, Let' s watch, Let' s listen	個・協
2	好きな教科をたずね合う。 「What subjects do you like?」「I like～.」「Why?」「I like～.」 ・ デジタル教科書で単語やチャンツ、フレーズの練習 ・ Let' s try 発表ノートを使って友だちの好きな教科を聞きまわる活動	個・協
3	各曜日の時間割をたずねる言い方を知る。 「What do you have on ～day?」「I have ～.」 ・ デジタル教科書で単語やチャンツ、フレーズの練習 ・ Let' s watch, Let' s listen	個・協
4	各曜日の時間割をたずね合う。 「What do you have on ～day?」「I have ～.」 ・ デジタル教科書で単語やチャンツ、フレーズの練習 ・ Let' s try ペアで世界の小学生になりきって時間割をたずね合う。 発表ノート ・ Plus one 「You have ～.」「That' s right.」 ・ Let' s read 「I have ～.」 発表ノート	個・協
5	オリジナル時間割を作成する。 ・ デジタル教科書で単語やチャンツ、フレーズの練習 「What do you have on ～day?」「I have ～.」 「Do you like ～?」「Yes I like ～.」	個・協
6 (本時)	オリジナル時間割をアンジェロ先生に伝える練習をする。 ・ デジタル教科書で単語やチャンツ、フレーズの練習 「What do you have on ～day?」「I have ～.」	個・協

	「Do you like 〜?」「Yes I like 〜.」	
7	・オリジナル時間割を C-NET の先生に発表する。 発表ノート	個・協

8. 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・What subject do you like? や What do you have on…? などの表現や関連語句を理解している。 ・好きな教科や時間割について聞き取る技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物と外国の小学生の会話から、その人物の好きな曜日の時間割や好きな教科を聞き取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物と外国の小学生の会話から、その人物の好きな曜日の時間割や好きな教科を聞きたろうとしている。
話すこと 【発表】	<ul style="list-style-type: none"> ・What subject do you like? や What do you have on…? などの表現や関連語句を理解している。 ・好きな教科や時間割について話す技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味・関心を伝えるために、「オリジナル時間割」を作って簡単な語句や基本的な表現を用いて発表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味・関心を伝えるために、「オリジナル時間割」を作って簡単な語句や基本的な表現を用いて発表しようとしている。
ICT	<ul style="list-style-type: none"> ・発表のノートを使って文字を書いたり入力したり、カードを動かしたり、写真を挿入したりする技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表ノートを使って、教科のカードを動かしながら、自分の好みに合わせた時間割を作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書の音声機能を使って英語の発音を聞いて自分に合ったスピードで練習することができる。

9. 本時の学習（本時 6 / 7）

（１） 目標

- Big voice、Smile、Eye contact、Gesture、Reaction を意識して、自分の伝えたいことを英語で伝えられるように練習する。
- 音声機能で自分に合った方法を選んで練習することができる。

（２） 本時の展開

主な学習活動	指導上の留意点	☆ICT 活用の留意点 使用機器・コンテンツ	評価の観点
<p>1 Greeting</p> <p>○ 全体に挨拶をし、曜日や日付、天気や気分をたずねる。 Good morning. What day is it today? -It's Thursday. What's the date today? -It's July 3rd. How's the weather? -It's _____. How are you? -I'm _____.</p> <p>2 Today's goal</p> <p>○ 本時のめあてを全体で確認する。</p>	<p>・ 元気よく挨拶をし、楽しい雰囲気を作ることができるようにする。</p> <p>・ 本時のめあてを確認することで、学習の見通しをもち、本時の終末で自分の学習活動を振り返ることができるようにする。</p>		
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> Today's goal オリジナル時間割を伝える練習をしよう。 </div>			
<p>3 Let's chant</p> <p>「I have math, music and English.」</p> <p>○ デジタル教科書を使ってチャンツに取り組む。</p>	<p>・ 全体練習→個人練習→全体練習の順で取り組むようにする。</p> <p>・ デジタル教科書を視聴しながら、リズムよく楽しく言えるようにする</p> <p>・ 速さを変えたり、イヤホンの装着を自分で選んだりし、自分に合う練習ができるようにする。</p> <p>・ 速さはFast、Normal、Slowの中から自分に合った速さを選ぶようにする。</p>	<p>☆音声機能を使って、自分に合った速さを選んでイヤホンで聞いて練習できるようにする。</p> <p>・ 学習者用端末 (デジタル教科書)</p>	

<p>4 Practice</p> <p>○ 教科名を全体で確認する。</p> <p>○ 「オリジナル時間割」の紹介フレーズを練習する。 「What do you have on ~day?」 「I have ~ and ~.」 「Do you like ~?」 「Yes I like ~.」</p> <p>5 Activity</p> <p>○ 発表練習をする。 「What do you have on ~day?」 「I have ~ and ~.」 「Do you like ~?」 「Yes I like ~.」</p> <p>・ Big voice、Smile、Eye contact、Gesture を意識して、ペアで曜日ごとの時間割を聞き合う。</p> <p>・ 相手の発表ノートに、Big voice、Smile、Eye contact、Gesture の項目ごとに評価する。</p> <p>・ 評価が低かった項目を重点的に練習する。</p> <p>○ 練習の成果を全体で発表する。</p> <p>○ 評価を改善するために、再び発表練習をする。</p> <p>○ 練習の成果を発表する。</p> <p>6 Reflection</p> <p>○ 本時のめあてにそって全体でふりかえりをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体で練習することで、再度確認する。 ・ 個人で練習をスムーズに行うために、全体で基本フレーズを確認する。 ・ 単語やフレーズの発音がわからなくなった場合は、デジタル教科書の音声機能を使って確認するように声を掛ける。 ・ 発表の練習がスムーズに進むように、デモンストラーションをする。 ・ Big voice、Smile、Eye contact、Gesture を意識するよう助言する。 ・ お互いに評価させることで、改善が必要な点に注目させた練習になるよう意識を高めさせるようにする。 ・ 評価が低かった所が改善されているかに注目して発表を見るように声をかける。 ・ 評価が高い部分をほめて、自信をつけさせ、練習への意欲を上げる。 ・ 評価が改善された部分は、追加で記入していくように声をかける。 ・ 評価が多い部分をほめて、次時への意欲を高める。 ・ 本時のめあてにそってふりかえり、次時に活かすようにする。 	<p>☆発表ノートを使ってフレーズを練習する。</p> <p>・ 学習者用端末 (発表ノート)</p> <p>☆発表ノートに評価を記入し合い、より相手に伝わりやすく発表できるようにする。</p> <p>・ 学習者用端末 (発表ノート)</p>	<p>(思判表)</p> <p>自分の興味・関心を伝えるために、「オリジナル時間割」を簡単な語句や基本的な表現を用いて発表しようとしている。</p>
---	--	---	--

(3) 板書計画



(4) 資料

① 外国語科に関するアンケート

(%)





























	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまら ない
1、外国語の学習は好きだ。	7 6	1 6	5	3
2、ストーリーを聞くのが好きだ。	4 3	3 0	2 4	3
3、英語で歌うことが好きだ。	5 1	3 5	1 1	3
4、自分の考えを英語で話すことが好きだ。	3 8	4 9	5	8
5、友だちの考えを英語で聞くことが好きだ。	4 3	3 8	1 6	3
6、もっと英語で話せるようになりたい。	7 3	2 4	3	0
7、もっと英語を聞き取れるようになりたい。	7 0	2 7	3	0
8、英語で自分の考えや思っていることを書けるようになりたい。	7 0	2 7	3	0

② ICT 活用に関するアンケート

(%)

	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまら ない
1、パソコンを使った授業は好きだ。	8 1	8	8	3
2、文章を入力することができる。	7 8	1 9	3	0
3、検索して情報を収集することができる。	5 4	3 0	1 4	3
4、収集した情報をフォルダに保存することができる。	4 3	3 5	1 4	8
5、収集した情報を整理することができる。	1 0 0	0	0	0
6、パワーポイントを使ってプレゼンテーションのスライドを作成することができる。	1 0 0	0	0	0
7、引用参考した場合、出所を記入することを知っている。	7 3	1 6	8	3

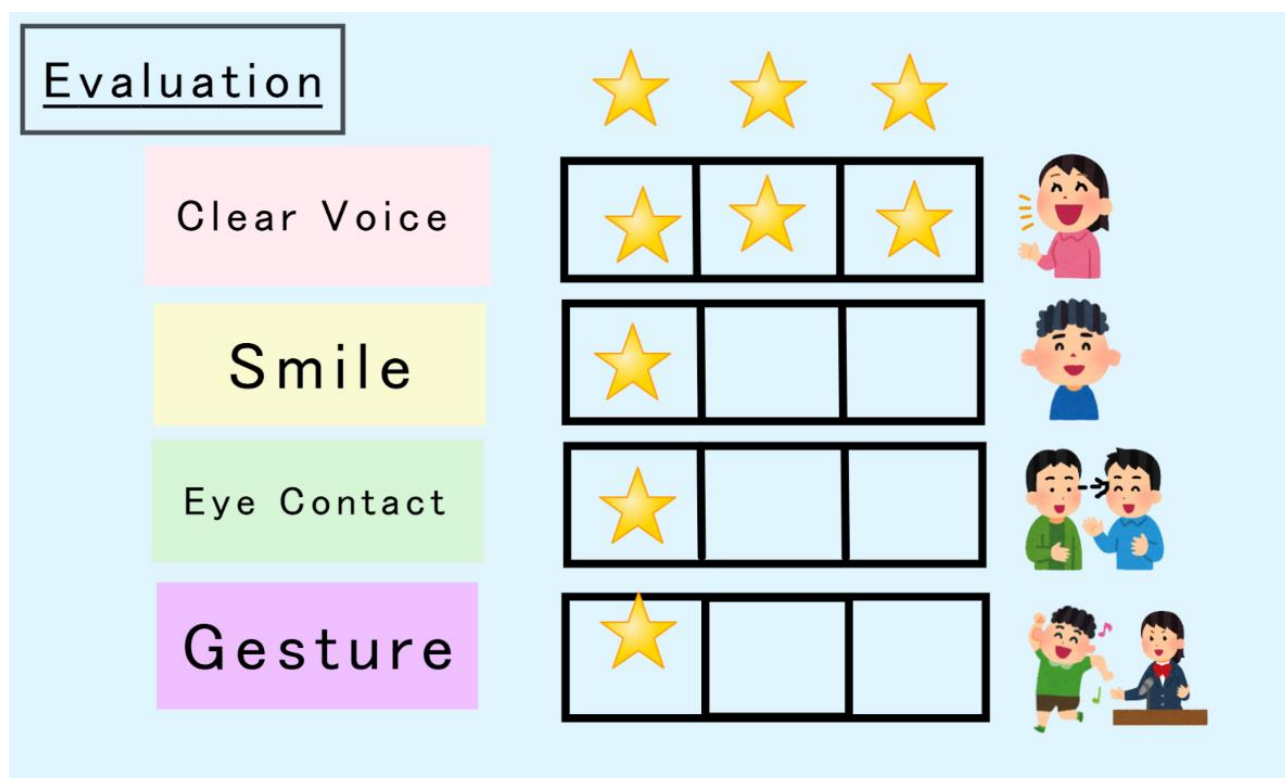
③ 本時で使う発表ノート

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	 Japanese	 Japanese	 math	 swimming	 math
2	 arts and crafts	 home economics	 music	 athlete	 badminton
3	 social studies	Library	 volleyball	 English	 Japanese
4	 drama	 music	 English	 music	 music
5	 English	 P.E.	 P.E.	 science	 English
6	 integrated study	 dancing	 arts and crafts	 arts and crafts	

④ オリジナル教科



⑤ 評価で使う発表ノート



10. 成果と課題

(成果)

- ・ デジタル教科書の音声機能を使い、自分に合った速さを選んだり、苦手なフレーズをくり返し練習したりして、主体的に学ぶことができていた。
- ・ 発表ノートを使ってお互いの発表を評価し合うことで改善点が視覚化されて、それをもとに発表の練習に取り組むことができた。また、自分の良いところや改善点を理解し、上手く発表することができたときに、それを視覚的に確認できていた。
- ・ 発表ノートを使って教科カードの並べかえをしたことで、カードを切り取ったり、並べたりする等の作業時間をかけずに時間割を作成することができた。
- ・ 5つのポイント「Big voice、Smile、Eye contact、Gesture、Reaction」を提示して評価し合うことで、目標を持って練習するようになり、より C-NET に分かりやすく伝わるように練習を続けることができた。

(課題)

- ・ 発表ノートを大型テレビに映すと教科書カードが小さくて見えづらかったので、提示の仕方に工夫が必要だった。
- ・ 5つのポイント「Big voice、Smile、Eye contact、Gesture、Reaction」を児童の主観で評価している様子が見られたので、評価の方法をより明確にする必要がある。
- ・ 発表ノートを提出して全員の画面が見られるようにし、友だちの時間割を手元で確認できるようにするべきだった。

